	<h1>あずまや</h1>	
<p>PTA 綱領</p>	<p>本会は教育を本旨とする民主的団体であり、不偏不党・自主独立の性格を堅持し、PTAの健全な発展の維持、並びに青少年の幸福な成長を図ることを目的とする。</p>	<p>今金町立今金小学校 PTA 広報部 TEL(82)0224 令和2年度 139号</p>

## 「今どのように感じていますか？」

今金小学校PTA会長 森川 修



新型コロナウイルスという未曾有の脅威に振り回される中、将来にやんわりとした不安を感じたのか、無性に安室奈美恵さんの曲が聞きたくなり、CDを手にしていました。そのCDに「How do you feel now?」という、引退コンサートの最後の最後、歌手人生最後に歌われた曲があり、とても感慨深く拝聴させていただきました。

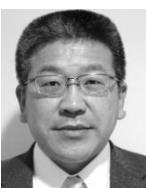
さて、私たち人間はどのようなときに「幸福」を感じるのでしょうか。幸福と不幸の間にはその人なりの明確な区分があるはずですが、「相対的な（他と比べての）評価」をするならば、他者、あるいは過去の自分などと比較することで判断されます。かわって、「絶対的な（単独での）評価」をするならば、他人から見てどんなに幸福な状況にあっても本人がそれを不幸だと感じていれば、それは不幸なのだということなのでしょう。反対にどんな不幸な状況にあっても、本人がそれを幸福だと感じていれば、それは幸福だといえます。いずれにせよ、物事を「幸せ」「不幸せ」の基準で判断するならば、それは始めから終わりまで主観的な判断に委ねられなければなりません。

私は悪い状況のとき、「さらに最悪の状況」を想定するよう心掛けています。もしその最悪の状況が起きてしまっても、あらかじめ想定しておけば対応の仕方もスムーズになるでしょうし、その最悪の状況にならなかった場合に「ああ、そうならないで良かった」と思うことでささやかながら幸福感を得られます。前向きな考えに至らなかった場合でも、そうやって幸福のハードルを下げたことで感じ方が変わるのだと思います。感銘を受けた言葉に「死ぬこと以外かすり傷」や「生きてるだけで丸儲け」というものがあります。どちらも逆境の中で前向きになれる、素敵なお考え方だと思います。

愛息たちよ、今年の短くなった夏休みを、どう感じるのかは、あなたたち次第です。

## 「夏休みによせて」

今金小学校 校長 久慈 学



「あずまや」への寄稿が年に4回あると知り、学校だよりの巻頭言とどのように色調を変えるか悩みました。PTA 広報誌なので、「元、P（親）」の立場としてなにかお話させていただければ、と考えましたので、第2号もご承ください。

さて、今回の話題は夏休み。今年のご存知のように9日間であります。そこにお盆などの行事もあるので、お子さんにとっても密度の濃い夏休みとなるのではないのでしょうか。

我が家の夏休みは、妻と私の両方の実家を訪れることがお決まりでした。4人の子供（孫）と大量のおむつや着替え、そして次男専用の枕と毛布（忘れると大変なことになる）を車に詰め込んで出かけます。久々の孫たちとの対面にはじめは笑顔の祖父母も、次第に憔悴し始め、戻る日になると逆の意味で嬉しそうでした。

また、夏休みというと「自由研究」。これは難問でした。そこで町主催の「昆虫採集・標本教室」に参加し、3人の息子娘みな昆虫標本の提出で逃げ切り？！しました。この企画に参加すると、私も教員なのでわんさかとやってくる我が子以外の小学生たちの世話をせざるを得ないわけで、それはそれで「充実した夏休み」でした。今でもいい思い出です。

今年は、今金小学校は学校からの宿題はありません。そのかわり「読書と作文のまちプロジェクトチーム」主催の「第1回エッセイコンテスト」への参加をお願いすることにしました。「感謝」「ありがとう」の気持ちをエッセイ（作文）の形にして、表現してもらいたいと思います。なにしろはじめての試みです。保護者のみなさまにもお手伝いいただくこともあるかと思います。どうぞよろしく願いいたします。

今小っ子のふたたびの笑顔と「ありがとう」の作文を楽しみにしつつ、私も明日からひといき入れます。（現在の状況下に我が子等の帰省なし・・・）

# 学年部会活動

## 4学年部会活動

4月7日・8日の2日間にわたり、児童の登校時間に交通安全を啓発する街頭指導を行いました。

新一年生の初々しい初登校姿も見られ、挨拶の声も楽しいものとなりました。

## 「4年生街頭指導」

4学年PTA 学年副部長

4月7日、8日の二日間、4年生の保護者による街頭指導が行われました。コロナの影響で、一ヶ月以上休みだった小学校、みんなマスク姿でしたが、久しぶりの学校へ行くことへの期待にあふれた様子で登校する姿に、私も心晴れやかな気持ちになりました。

子供たちは、お友達や兄弟と楽しそうにしていたり、一人でのんびりと歩いていたり様々でした。町内会の街頭指導員さんも4人交差点に立っていて、注目されながら声を掛けられて少し恥ずかしそうにしていた子供たちでしたが、みんな挨拶を返してくれて私も元気をもらいました。

どの子も交通ルールをしっかりと守っており、登校時間に遅れそうな子も交差点を手を上げて渡るなどして、日頃の家庭や学校の指導の成果を感じました。

車道で車が通行中にもかかわらず、**車道へ飛び出す児童が見受けられます！**

保護者の皆さん、命を守るため**各家庭での教育**を厳にお願いいたします！



## 夏休みの生活について

- 子供同士で遊ぶときは、行き先をお父さんお母さんに言ってから、午後5時までは家へ戻りましょう。
- 交通安全には十分注意しましょう。
- 危険な場所での遊びはやめましょう。  
(空き家、資材置き場、ため池、用水路等)
- 挨拶は、家庭の中でも外でも、元気よくしましょう。



## 編集後記

早いものでもう8月、新学期から数えて1年の三分之一が過ぎたことになります。新型コロナウイルスは終息の兆しを見せず、マスクの着用や感染症対策が日常になってきましたね。

いつもであれば行われていた色々なイベントも、やむを得ない事ですが中止となっている現在、子供たちが家で過ごす時間も長くなっている事と思います。過日行われた今金町PTA連合会の標語活動では、今小6年生の小笠原さんの作品「本を見て いろんな世界を見つげよう」が教育長賞に選ばれました。その他の入選作品も含め作品を眺めていると、制限が多い今だからこそ普段できない事や、やらない事にチャレンジできる機会という考え方もできるんだなあ、と思い至りました。言うは易し行は難し、親として子供たちにいろんな世界を見つける手助けができていだろうか？と自問する今日このごろ。コロナの終息を願いながら、「ピンチをチャンスに」の心持ちで過ごしたいものです。

今後も、PTA活動は実施可能なものは行われていく予定です。こうした状況ではありますが、皆様の引き続きのご理解ご協力をお願いいたします。